

ROCKEY2 クイックスタートガイド

ROCKEY2 でアプリケーションを保護する手順

Step1: お客様専用の SeedCode を指定し、ROCKEY2 の初期化ツールや API 方式で UID を生成する

お客様専用の SeedCode（任意文字列、最大 64 バイト）を指定し、ROCKEY2 初期化ツールの [Generate UID] 機能で ROCKEY2 を初期化し、UID を生成します。

複数 ROCKEY2 を初期化する際に、SeedCode の入力を省くため、下記 Step2 の方法 2（API 方式）で自社専用の初期化ツールを開発することをお勧めします。

※SeedCode はお客様の秘密情報として、お客様自身で保管してください。生成された UID は下記 Step2 でアプリケーションプロテクトする際に利用されます。

また、初期化ツールの [Write] 機能を利用し、ROCKEY2 のデータゾーンへ内容を書き込みすることが可能です。

※データゾーンは下記 Step2 の方法 2（API 方式）にて利用できます。

→  『ROCKEY2 開発者ガイド』の[第 5 章 ROCKEY2 初期化ツール]

Step2: 保護方式を選択し、アプリケーションを保護する

方法1: エンベロープツール方式

ROCKEY2 の Windows 開発キットにはエンベロープツールが提供されています。既存のアプリケーションやライブラリ（*.exe/*.dll/*.ocx）のソースコードを修正せず、エンベロープツールで簡単にプロテクトできます。

→  『ROCKEY2 開発者ガイド』の[第6章 ROCKEY2 エンベロープツール]

方法2: API 方式

お客様開発されたアプリケーション・ソースコードに ROCKEY2 との通信インタフェースを埋め込んで、アプリケーションのプロテクトを実現できます。

また、ROCKEY2 のデータゾーンに内容を書き込んで、API 方式で読み込んで利用するなど、自由なプロテクションスキームを組み込むことが可能です。

API 方式で作成したアプリケーション（.exe）が方法 1 のエンベロープツールでラッピングを行うことも可能です。

→  『ROCKEY2 開発者ガイド』の[第 7 章 ROCKEY2 の関数(API)]

→ 関連サンプル: ROCKEY2 SDK Vx.x¥Windows¥Samples¥